

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502397		
法人名	有限会社レストケア		
事業所名	グループホーム びーぶるマルシェ		
所在地	札幌市南区川沿16条2丁目4番17号		
自己評価作成日	平成22年7月29日	評価結果市町村受理日	平成22年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家族の要望により、看取り介護を行っている。
 ・日常生活での医療、又は緊急時には当ホームと連携している協力医療機関と24時間体制で対応している。
 ・個々の特性を生かし、個別対応に心掛けている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigocho-hokkaido.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=0170502397&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目北海道社会福祉総合センター(かでる2・7)4F
訪問調査日	平成22年11月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅街に設立されている事業所は、運営理念に掲げている「安心と尊厳ある生活、安らぎと自信を感じる生活、地域交流」を基本として事業所代表者と職員が一体となって実践に取り組んでいる。理念の他にもユニット毎にケアの年度目標を作って利用者の笑顔を引き出すような実践に努めており、スタッフの意欲的姿勢が見られる。地域密着を目指して町内会活動にも積極的に参加し、地域に会報を回覧している。地域の人が端切れをウエスにと持ってきてくれたり職員が近隣の除雪を手伝うといった交流もある。開設8年目となり高齢者、重介護度の利用者も多いが、本人の出来ることを見極めながら自信を感じてもらえるような支援をしているため、利用者は生き生きとその人らしく過している。身体拘束廃止委員会や虐待防止委員会を設置し月1回話し合っているほか、外部研修参加も積極的に参加し、福祉の動向を全職員が理解できるよう、学ぶ機会を作っている。また、ヘルパー養成の実習生を受け入れて指導している事がケアのレベルアップに繋がっている。外食、買物、地域行事参加など外出する機会を多く作って生活の活性化を目指しており、またターミナルケアにも取り組んでいる。職員には看護師有資格者もいて、かかりつけ医や介護職員と連携して、事業所が利用者にとって人生の最後まで安心して生活できる場所となるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、職員間で復唱し、日々の仕事に活かしている。	「人格尊重、安心と尊厳ある生活、安らぎと自信を感じる生活、地域交流」の運営理念を毎朝ミーティングで復唱して、理念を日々確認しながら実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでの行事に近所の方に参加して頂き、町内会での行事にも参加している。	新年会、敬老会、舞踊、合唱など地域行事に参加しており、事業所行事にはポスターやチラシを配り呼びかけ交流をしている。また地域の一員として、町内会の総会にも出席し班長も引き受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報を年1回発行、地域の方に理解を得られる様、町内行事に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の活動状況を報告し、意見をもらう様になっている。	運営推進会議は事業所の運営状況などを具体的に報告して参加メンバーと積極的に意見交換をしている。メンバーの意見から「ケア目標」が決まることもあり、会議をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の主催する研修会には積極的に参加している。	管理者は区の管理者会議に出席したり、行政に関して疑問、質問などがあるときは常時電話で問い合わせるなどして、介護保険課や保護課との連携を密に行いサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内に身体拘束廃止委員会を設置し、月1回会議を開催し、全体会議に於いて報告し、職員間での検討共通認識を持つ様になっている。職員の見守りを徹底し、玄関の鍵はかけていない。外出の希望があれば、出来る限り一緒に出かけられる様、職員間で連携をとっている。	職員を外部研修に参加させたり身体拘束廃止委員会を設置するなどして共通認識に努めている。玄関施錠は夜間のみで日中は見守りケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内に虐待防止委員会を設置し、全体会議で報告し、職員の意見を求め虐待防止に取り組んでいる。		

グループホームぴーぷるマルシェA

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等の研修会に参加し、必要な利用者に対しては支援できる体制作りをしている。現在は該当者なし。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解を得ている。転倒等のリスクに対しても説明を行っている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人、家族が話しやすい雰囲気を作り、面会時は要望を聴く様になっている。	年1回「マルシェ通心」、月1回「マルシェ便り」を家族に送り、個々人の写真と生活の様子を手紙に書いて情報を提供している。家族訪問時は積極的に関わり気楽に話し合いができるように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者が意見等を話しやすい様な環境を作っている。	毎月開催の全体会議、ユニット会議で職員同士の意見交換を促しており、発言も徐々に増えている。ユニットリーダーが個別に話し合う場合もある。業務改善に関しては全職員の意見を聞き意見が反映されるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の参加を職員に呼び掛け、技術を向上できるような機会を設けている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加の機会を設けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のGHの見学研修をし、同業者との交流の機会を設けている。			

グループホームぴーぷるマルシェA

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他の利用者と馴染めるように配慮し、安心して生活して行ける様に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望に傾聴し、安心してもらえるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の心配事を傾聴し、安心してサービス利用をしてもらうようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の長所から学び、共に笑える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連携を密にし、共に参加できる行事を催したり、近況を書いた広報を発行したりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊や面会等を通じ、人や場所との関係を継続できるようにしている。	家族面会の時はゆっくり話しが出来るような環境作りに努めている。希望、要望時は電話や手紙で連絡するなどして関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座って頂く席などを配慮し、関わりあえる様に努めている。		

グループホームぴーぷるマルシェA

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報を交換したり、訪問する等をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思い、希望を把握し、意向に沿った生活ができるよう対応している。	利用時に趣味、嗜好品、嫌いな食物などの把握に努め、従来の生活が継続できるよう支援している。関わりの中では言葉や表情から思いを汲み取り、ケア会議で情報を提供して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や利用されてきたサービス等の記録により、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常から観察を怠らず、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、ご本人、ご家族の要望を取り入れ、介護計画に反映させている。	担当者がアセスメントをして管理者と計画作成者が作成し、本人や家族の意見も汲み取って本人主体の介護計画を作成している。モニタリングは職員全員で話し合いをして見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に、日々の暮らしの事や、食事分量等を記入し、全ての職員が情報を共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族、本人の希望を取り入れ、外泊、外出の支援など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事に参加している。ホームでの行事についても案内をし、地域の方の参加を呼び掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望で主治医を決めている。医師との連絡調整を行っている。	家族の希望に沿ってかかりつけ医を決めている。協力医の定期的な訪問診療の他、タクシーや事業所の車で通院支援も行なっている。	

グループホームピーぷるマルシェA

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況の変化を看護師に報告し、必要時受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、長期入院によるリスクを避けるため、医師と情報交換し、早期退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、早いうちに家族と話し合いを持っている。チーム内でも話し合いをしている。	入居時に、重度化した場合の対応指針、看取りに関する指針を説明して同意書を貰い、重度化した時には改めて家族に確認して方針の共有を図っている。今年に入ってから、夜間を含む毎日の往診等かかりつけ医の協力を得て看取った事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、連絡網を作成し、初期対応が出来る体制ができています。訓練も定期的に行っており、職場内研修も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員、利用者、町内会参加で、避難訓練の機会を設けている。	消防署の協力による避難訓練や職員同士での訓練、消防実技研修への参加等、災害に対する意識は高い。又IHヒーター、集中暖房、緊急通報装置、スプリンクラー等防災の為に設備を整え点検も行っている。	昨年度の評価で地域の協力体制を得る取り組みが期待され、今年は避難訓練に住民2名の参加を得た。地域の高齢化やアパートの増加等難しい面もあるが、具体的な計画に基づいて更なる協力体制を築いていく事が期待される。毛布やオムツなど備品の準備についても検討して欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い、記録等には、常に慎重に対応するよう心掛けている。	虐待防止委員会を作り言葉遣いなどの研修をしている。日々の関わりの中でも気づいたことは職員同士で注意して人格尊重の対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人が希望を自己決定出来る様に、わかる力に合わせた支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた過ごし方をしてもらい、希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや、おしゃれが出来る様に、本人の望む様に努めている。		

グループホームぴーぷるマルシェA

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人が出来る事、得意な事を活かし、一緒に準備をすることを常に心掛けている。	調理の一連の作業の中で各自が出来ることをして力が発揮できるような支援をしている。一部介助が必要な人には適切な声かけをして介助しており、食事が利用者の大きな楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合ったカロリー量等バランス良く摂取できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをし	毎食後、口腔ケアをし、歯間ブラシ等、その人に合ったケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の方に合わせた排泄パターンを知り、気持ちよく排泄できるように支援している。	排泄パターンを把握しトイレ誘導を行なっている。紙パンツ、紙パット、紙おむつなど身体機能に応じ使用しているが、使用者もトイレ誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便の有無をチェック記録し、適度な運動、水分量のチェックをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に、ご本人の意思を必ず確認し、拒む方に対しては、安心して入浴して頂けるような言葉掛けをしている。	週2回を目途に入浴を支援している。機能低下の人には職員2人に対応し、拒否された場合は時間をずらしたりシャワー浴にするなど、臨機応変に支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量をなるべく多くするよう努め、夜間、安眠が出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は必ず職員が目を通し、服薬時は必ず職員が服薬介助する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや、洗濯物を干したり、畳んだりなど、個々の得意な仕事を毎日行って貰っている。		

グループホームぴーぷるマルシェA

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気を考慮し、散歩、外食、散髪をかねてドライブ等をしている。	近隣の散歩、買い物、回転寿司での外食、ドライブ、地域行事参加など日常的に戸外に出る機会を作り、気分転換、生活の活性化に努め支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際など、実際に支払ってもらえるよう、お金を手渡す等の工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、利用者の希望により電話をかける支援をしている。その際は、周囲に会話が聞こえない様、自室で話せる様、配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や玄関に椅子を用意し、一人になれる空間を作っている。季節ものの飾り付けをしている。	共用空間はとても清潔感があり、居間や玄関には行事の写真や作品、クリスマスツリーやアートフラワーなどが飾られている。利用者は、明るく温かい雰囲気の中で手作りのおやつを食べたり談笑したり風船バレーや歌を歌うなど、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の席以外に、ソファを置いたり、窓のそばに一人掛けの椅子を置いたり、本人の好みで好きな場所に居られる様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの家具、寝具等、本人、家族の好みの物を配置し使用している。	居室には馴染みの家具や調度品が置かれ、写真や手作りカレンダーが飾られている。また、入居時に本人が書いた自筆の名前の額が掲げられた個性的な居室入口となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人にできることはなるべく行って貰い、自立した生活が送れる様にしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502397		
法人名	有限会社レストケア		
事業所名	グループホーム びーぶるマルシェ		
所在地	札幌市南区川沿16条2丁目4番17号		
自己評価作成日	平成22年7月29日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家族の要望により、看取り介護を行っている。 ・日常生活での医療、又は緊急時には当ホームと連携している協力医療機関と24時間体制で対応している。 ・個々の特性を生かし、個別対応に心掛けている。
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=0170502397&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目北海道社会福祉総合センター(かでる2・7)4F
訪問調査日	平成22年11月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は理念を理解し、日々の実践を関連づける様にしている。毎朝、ミーティングで復唱している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とあったら、積極的に話しかけを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回、広報を出し、活動状況を知らせている。町内行事等に参加し、理解を得る努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行う運営推進会議では、利用者やホームのサービス状況を報告し、そこでの話し合いや意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	南区主催の会議や研修会に出席し、管理者も管理者会議や交流会に参加している。区からの問い合わせや相談にも応じている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が身体拘束に関して、介護保険法基準禁止行為を正しく理解し、研修会に参加し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。居間には鍵が無く、運営者、職員全て、日中玄関に鍵をかける事の弊害を理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待防止に関する研修に参加し、カンファレンスを行い、ホームにて虐待防止委員会を設置し、職員一同防止に努めている。		

グループホームぴーぷるマルシェ(B)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加し、ホーム内で職員カンファレンスを行い、必要な方々にはそれらを活用できる様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、解約をする際には、文書をもって理解を図り、十分な説明を行い納得してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問、面会時に於いて要望を聴く様になっている。又、意思を表現しやすい状況を作っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議、ユニット毎のカンファレンスを行い、職員の意見や提案を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	従業員の人格、価値観を尊重し、人員配置し変化への対応と所定の休暇を確保し、勤務上公平な取り組みをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に研修会の参加の機会を設けており、外部の研修会や勉強会にも参加し、受講者は内部会議で報告、参加記録をまとめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援事業所と連携を持ち、他GHの見学等同業者との交流をもっている。行事に参加の案内を出し、交流を保つ様になっている。		

グループホームぴーぷるマルシェ(B)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学、面談時、緊張を解く様に対応している。他利用者さんとふれ合いを持って頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんの不安、要望等を傾聴し、内容によってはアドバイス等を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の話や、家族の悩みを良く傾聴し、その方に適したサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に合わせたペースで自尊心を傷つけない様心掛け、利用者の得意な事は教えて頂き、出来ない事は支援し、支えあう関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に利用者の生活上の事等を相談し合って、本人がより良く生活できる様、家族と一緒に考え、本人を支える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親類、家族の面会や電話、お手紙を通じ、関係が途切れない様、又面会しやすい環境作りをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立する事無く、利用者同士が関わりあえるよう、環境、場面作りをしている。		

グループホームぴーぷるマルシェ(B)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、家族等の相談支援や、医療機関との連携により、電話や面会を行い、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は家族からの情報や利用者の生活歴、話等から、その人らしく生活できる様に希望の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	家族や知人から、生活歴や馴染みの暮らし方について聴取し、これまでの生活やサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のスキンシップやバイタル測定等を通じて、健康状態を把握し、生活記録の情報も含めて総合的に判断する様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の方の要望を聞き入れ、計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日常生活やケアの実践、結果、気づきを記録し、チームケアとして情報の共有を行い、今後の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じ、一時帰宅、外泊等、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、町内行事に参加。ホームでの行事も地域の方に案内を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、家族の意向を踏まえて、主治医を決めている。変化があれば主治医へ連絡、受診している。その都度、家族へ連絡している。		

グループホームぴーぷるマルシェ(B)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況の変化時は報告、指示を得て状況に応じて受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院したときに、医療機関と情報交換等を行いながら協力し、早期退院に向けた支援をし、本人が安心して治療できる様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場、早いうちに家族と話し合いを持ち、看取り指針、確認書を受け、チーム内で話し合いを持っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、初期対応や連絡体制を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日頃より、町内会、近隣の方と親交を持ち、協力を得られるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修等を受けて、個人のプライバシーに配慮した対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定が出来る様に、個人の能力に応じて説明や対応を行い、本人が納得できる様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて、皆がより良い生活が出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容に定期的に出かけ、おしゃれが出来る様、洋服も一緒に買いに出かける等の支援をしている。		

グループホームぴーぷるマルシェ(B)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の出来る事を活かし、食事の盛り付けや、準備、食後の後片付けを職員と共にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部栄養士による献立を採用し、水分チェックを行い、栄養バランス、水分量を確保できるようにし、本人の好みに応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをし	毎食後、口腔ケアを実施、個人の能力に応じた支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、失敗を出来るだけ減らす為に声掛けをし、気持ちよく排泄できる様に支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因、影響を理解し、個人の排泄パターンを把握して、歩行運動、水分補給対応、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングで、気持ちよく入浴を楽しめる様に支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に休息をし、体と精神の安定を保ち、無理せず生活できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は研修、カンファレンスにて薬について勉強し、使用している薬を把握する様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や出来る事を活かし、散歩や外出を行い、またゲームで点数を競う等、張り合いを持たせた気晴らしが出来る様支援している。		

グループホームぴーぷるマルシェ(B)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を勘案しながら散歩、ドライブ、買い物等、又散髪を兼ね外食をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて、金銭を所持したり、一緒に買い物に出かける様、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に年賀状など、手紙のやり取りが出来る様に支援し、電話も要望があれば出来る様にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は居心地良く生活できる様に飾りつけやインテリアを工夫し、生活感や季節感を取り入れ、玄関や廊下に椅子を配置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が一人でいたい時にいれる場所に椅子を配置したり、利用者同士で談笑したり出来る様に長椅子を配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や家族の写真を置き、本人が居心地良く過ごせる様に、家族と相談しながら工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体的、及び認知能力低下予防の為、本人の出来る事は進んでして頂いている。		